

令和3年度 学校評価について

保護者の皆様には、学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。その集計結果ならびに自由記述欄にいただいたご意見に関しまして、次年度の方向性をふまえてご報告させていただきます。

1 結果概要と考察

【調査対象と回答数】 保護者 443 児童 634 教職員 33
【各項目の4段階の平均値】 4:よくできている 3:おおむねできている 2:あまりできていない 1:改善を要する

	評 価 項 目	保護者	児 童	教職員
1	学校は、子供たちが気持ちのよい挨拶や返事ができるよう自ら実践し、指導している。	3.30	3.27	3.33
2	学校は、道徳教育に力を注ぎ、子供に思いやりの気持ちや相手を許す心、規範意識を育てている。	3.21	3.42	3.39
3	学校は、学習への関心・意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けられるように指導している。	3.20	3.21	3.39
4	学校は、学習内容が分かりやすく、楽しく授業を行っている。	3.32	3.46	3.30
5	学校は、休み時間によく遊んだり、運動したりするよう指導している。	3.20	3.16	2.97
6	学校は、最後までねばり強くやりぬき、失敗を恐れずに乗り越えられるような支援をしている。	3.05	3.35	3.27
7	学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、それらに適切に対応している。	3.16	3.14	3.39
8	学校は、明るく清潔で、感染症などの対応にも配慮した環境づくりに努めている。	3.24	3.31	3.36
9	学校は、子供たちが校内や校庭で安全に過ごせる環境を整備している。	3.28	3.51	3.39
10	学校は、地域や学校の特色を生かした教育活動を行っている。	3.12	3.40	2.88
11	学校は、学校だより・学年だより・すぐー等を通し、学校での取組や様子をわかりやすく伝えている。	3.28	3.41	3.42
12	学校は、保護者や地域の人などが、積極的に教育活動にかかわれるよう工夫している。	3.03		2.85

【考 察】

保護者アンケートについては、どの設問も3.0ポイント以上ということで、概ね達成できていると肯定的評価をいただきました。中でも設問4「学習のわかりやすさ」は、児童も実感しており、教育機器の活用や教職員の相互研修などを通して教員の授業力の向上に努めてきたことを、今後も継続していこうと思います。一方、設問6「ねばり強くやりぬき、失敗を恐れず乗り越える」ためには、失敗は悪いことではなく、その経験をどう次につなげるかのヒントを与えるような支援をしていく必要があると考えました。設問7「相談しやすく適切に対応している」については、自由記述の中でもご意見が分かれました。教員によって対応の違いがあったり相談しづらい雰囲気があったりしないよう、職員間の風通しを良くして、必要に応じてはチームで対応するなど、保護者の皆様にとって納得がいく対応を心がけてまいります。

児童へのアンケートの中でも、この設問7は、他の設問に比べて低い値でした。学校では、担任以外にも養護教諭やスクールカウンセラーなど、立場の違う先生がいることを伝えるとともに、何気ない会話の中から相談の糸口を大人が見つけてあげることも必要だと感じました。定期的に行っている「いじめアンケート」から相談に応じています。

教職員のアンケートの中では、設問5「休み時間に遊んだり、運動したりするよう指導」が低く出ました。それでも緊急事態宣言が明けてからは、陸上大会や球技大会、体力テストなど、運動する機会も増えました。ボール投げ運動のミニ講習会も体育委員会の児童が企画し、実施しました。寒くはなりますが、休み時間に外に飛び出ていく児童の笑顔と元気がたくましさの象徴かもしれません。

設問10、12「地域や学校の特色を生かした教育活動とその工夫」という点は、改善を要します。今年

度、地域の育成委員会の活動が昨年度よりは活発化されたこと、避難所運営委員会が軌道にのってきたことが、よいきっかけになると考えています。学校の周りの宅地が開発され、新しい住民の皆様も増えてきました。新たな関わりと特色ある教育活動ということを改めて考えていこうと思いました。

2 自由記述より

様々なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。その内の3分の1は「コロナの中、いろいろ工夫していただき感謝している。」「楽しく登校できている。」「学校が頑張った結果の失敗は構いません。どんどんチャレンジしてください。」といった感謝や励ましの言葉でした。ここでは、複数の方からいただいたご意見・ご要望を中心に、次年度に向けての考え等を記させていただきます。

《学校からの配信について》

「ICTの活用を通して、お便りのペーパーレス化や学校の様子をリアルタイムに伝えてほしい。」というご意見がありました。ペーパーレス化の要望は、教職員からもあがっており、「すぐーる」を活用すれば、学校だよりを皮切りに、来年度から取り組めると考えます。クラスの様子等の配信は、個人情報保護の観点と、配信するため（撮影・選別・配信）の人員がいないので、来年度も今年度と同様の状況となりそうです。

《安全面での指摘》

「教職員の車が児童と同じ門を使用している」ことについての不安が寄せられました。

児童の登校時間にかぶらないように出勤することと、児童の登校門からの進入を極力減らすために、「北門」「通用門」からの進入を推奨しています。登校時には、職員が校門に立ち、必要に応じて交通整理を行い、全職員に安全運転を徹底させています。

また、「子供の飛び出し・道路での遊び」など学校での指導を求める声もありました。事故が起こってからでは遅いので、学級指導で随時指導をしたり、昼の放送で遊び方や交通安全について呼びかけたりしています。ご家庭でも折を見て、継続的に指導してください。

《教員の指導について》

教職員の言葉遣いや言い方などについてのご意見もありました。場に応じて丁寧な言葉遣いで、子供たちに指導することの大切さを全職員に周知するとともに、OJT（On the Job Training）により、教職員に必要な知見を高めていくよう努めます。

また、疑問に思われるときは、なるべく早く当事者に真意を聞いていただくことをお勧めします。そのことにより、間違いに気づくこともできますし、児童との関わりの中でのやり取りを保護者の方にお伝えし、よりよい教育活動につなげていけるものと考えます。

《評価について》

「このアンケート自体、抽象的すぎて評価の基準がわかりにくい」「通知表の項目が曖昧な表現でわかりにくい。」「記名方式では率直な意見が書きづらい」といった意見が寄せられました。評価結果の活用目的として、本校の『めざす子供の姿』がどの程度達成できているかを確認する、ということがあります。そこで、やさしさ・かしこさ・たくまさが図れるような設問にしました。また、記名することによって必要に応じて学校から回答することができます。通知表の表現については、ご意見にあったように、学んだ内容に応じた評価項目の方が、児童の姿がよりわかりやすく伝わりますね。その部分を個人面談でお伝えしたつもりでしたが、少ない時間の中ではお伝えしきれなかったのが現状かもしれません。評価項目については、学習指導要領を基準とし、学校の実態に合ったものにしていきますのでご理解ください。

《その他》

教材の準備に対する要望、タブレット使用に関するご意見、参観日での参観人数制限の件、などのご意見もいただきました。教職員個人や学年に伝えたり、全職員で共通理解したりして、解消できることは改善していきます。児童からの自由記述には、発達段階の特徴がよく表れていて微笑ましいものがありました。低学年は「サンタさんに頼みたいもの」「今年、できるようになったこと」など身近な話題を先生に伝えたい、という思いが記述されていました。また、「○○さんから嫌なことを言われる」といった訴えは、低・中学年によく見られました。これは、すぐに担任が聞き取りを行って指導や助言をしています。「クラスでこんなことをしたい」「自分はこれを頑張りたい」といった提案や決意の記述が中・高学年に見られました。「4時間目は、おなか減ってつらいです。」といった痛烈な訴えには、思わず笑ってしまいました。児童の思いや保護者の皆様のお考えを汲みながら、これからの教育活動に生かしてまいります。ご協力ありがとうございました。